

【NY原油 概況】

●30日のWTI原油は、前日比0.21ドル安の65.21ドルとなった。
 トランプ米大統領は30日、米連邦準備制度理事会（FRB）次期議長としてケビン・ウォーシュ氏を指名すると発表した。ウォーシュ氏は次期FRB候補の中では相対的に「タカ派」として知られていることから、FRBが今後利下げに動きにくくなるとの観測が高まり、ユーロを中心に対主要通貨でドル買いが先行。

●2日のWTI原油は、前日比3.07ドル安の62.14ドルとなった。
 トランプ米大統領は前週末、記者団に対し、イランに関して「彼らは確かに合意を望んでいる」と主張。同時にイランに向け、大規模な艦隊を派遣していると威嚇した。

●3日のWTI原油は、前日比1.07ドル高の63.21ドルとなった。
 海事関係者と安全保障コンサルタント会社は3日、複数のイランの砲艦がオマーン北のホルムズ海峡で、米国船舶のタンカーに接近したと明かした。一方、同通信は米軍が3日、アラビア海で米空母「エブラハム・リンカーン」に攻撃的に接近してきたイランのドローン（無人機）を撃ち落とすと発表したと報じた。

●4日のWTI原油は、前日比1.92ドル高の65.14ドルとなった。
 米国とイランが6日の開催で調整していた高官協議の実現が危ぶまれていると報じた。協議が見送られ、米国とイラン間の軍事的衝突に発展すればエネルギー供給の混乱につながる懸念が強まり、原油は一時急速に買われた。

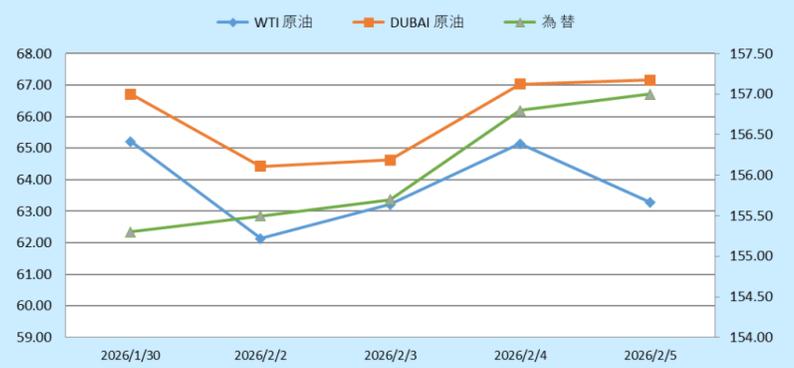
●5日のWTI原油は、前日比1.85ドル安の63.29ドルとなった。
 米国とイランの核協議を翌日に控えて神経質な商いとなる中、利益確定の売りが台頭して3営業日ぶりに反落した。また、トランプ米政権が軍事的圧力を強める中、市場ではイランがホルムズ海峡を封鎖し、中東一帯の原油輸送が混乱する可能性があるとの警戒ムードが広がっている。

2026/2/6 12:00現在 WTI原油 64.11ドル 為替 1ドル 157.82円

国内石油製品在庫 1月31日時点 単位/万KL



ドル/bbl WTI・DUBAI / 為替 相関グラフ 単位/円



【次回価格変動予想】

2/12~2/18

【市況総括】

ガソリン	➡	2.5 ~ 3.0
灯油	➡	2.5 ~ 3.0
軽油	➡	2.5 ~ 3.0
A重油	➡	2.5 ~ 3.0
LSA	➡	2.5 ~ 3.0

※原油コスト「+2.5円~+3.0円」
 ※補助金 前週比±0円
 ※現時点での予測です。

《今週》今週の元売り仕切り改定は、3社ともに原油コストは「+0.5円」、補助金は、全油種「±0円」、都合、全油種「+0.5円」の改定となりました。
 《来週》次回の元売り改定は、原油コストは「+2.5円~+3.0円」、補助金は「±0円」で、都合ガソリン「+2.5円~+3.0円」の改定予測となっています。

【次世代エネ コラム】

＜ソフトバンク、再エネ自家発電とAIで基地局省電力化＞

ソフトバンクは、2050年までの温室効果ガス排出実質ゼロを目指す「ネットゼロ」実現に向け、通信インフラの脱炭素化を加速させている。具体的には、電力を「作る」と「使う」の両面からアプローチし、再エネ自家発電型基地局の実証とAIによる省電力システムの導入を開始した。千葉県市原市で実施中の実証では、太陽光と小型レンズ風車を組み合わせたハイブリッド発電を採用し、基地局消費電力の約三分の一を自給している。この風車は低風速でも高い発電効率を誇り、離島や山間部への設置にも適しているほか、蓄電池の活用により災害時の自立稼働も可能である。一方、電力消費の効率化においては、AIが人流やトラフィックを分析して基地局を動的にスリープさせるシステムを開発した。これにより、通信品質を維持したままスリープ対象を約2万4千セルに拡大し、一局あたりの稼働時間も約一・四倍に延ばすことに成功している。同社は年間約五百万キロワット時の電力削減を見込んでおり、2030年度までに事業電力の100%再エネ化、そのうち五割以上を自社発電等で調達する目標を掲げている。基地局の再エネ比率は既に九割を超えており、高度なテクノロジーを駆使した環境負荷低減モデルの構築は、レジリエンス強化と脱炭素社会の推進に大きく寄与するものである。